



作／渡辺 鶴
演出／須永克彦

日時／二〇〇〇年

八月二八・二九・三〇日

会場／文芸会館小劇場



1998年から始まった韓国との演劇交流は、2000年8月に初訪韓公演を実現することができた。ここにご報告します。

『政府の日本大衆文化開放方針以後、初の日本演劇がやってきた。日本の劇団道化座の二人芝居「幸福」の韓国文化芸術振興院の特別招請公演（ソウル演劇祭プレ公演）は大学路の文芸会館小劇場で8月28日ゲネプロ上演。29・30日に3回の公演が行われた。

戦後日本の家族関係を温かい眼差しで的確に描いている。第二次大戦の後遺症を持つ舅、それを支える嫁。日本庶民の暮らしと哀歓を引き出す。作、演出、出演と3役をこなす須永の卓抜な演技、それを明るく受ける馬場。義父と嫁が繰り出す軽快な台詞が際立った。韓国俳優二人の声の助演も良かった。

「あきこさん、あんたは私の宝物だ」久しい昔に婦人と死別した老人にとって、素直で機知に富み、ユーモアで接してくれる嫁。これほど良い友が居るだろうか。

神戸で活躍中の劇団道化座は創立50年を迎えた。95年の神戸大震災当時、劇場を失う困難の中で劇団を再建。翌年から、市民たちが震災を克服する過程と立ち上がる意志を織り込んだ《生きる》シリーズ6作品を上演して多くの支持を受けている。……』

以上は、東亜日報、ハンギョレ新聞、中央日報、国民日報、文化日報、韓国経済新聞、スポーツソウルの各紙に掲載されたものの要約である。ほんとうに温かく迎えていただいた。

初日終演後のティパーティーには、韓国演劇界からキム・ジョンオク（韓国文化芸術振興院長）、朴雄（韓国演劇協会理事長）、韓基天（文芸会館館長）、白正子（国立劇団大幹部女優）、林英雄（劇団サムヌリム代表）、李康列（韓国戯曲作家協会会長）、鄭求宗（東亜日報理事）、の諸先生方はじめ、在韓日本人の方々が多数出席された。特に文化芸術振興院のスタッフの皆様には手厚くお世話をしていただいた。感謝ハムニダ！

観客の反応も上々で、日本語のセリフにいち早く笑い、泣き、そして拍手。日本と同様違和感なく溶け込んで頂けた。劇中、感極まり涙を抑えきれず号泣されたご婦人も居られ、嬉しい驚きもあった。

記者の方から、「観劇を希望した人がまだ大勢居る。3回公演はあまりにも短すぎた。」とはなんとという嬉しさ。他に「この『幸福』を拝見出来たことは私にとってまことに幸せなひとときでした。」のお言葉を頂くなど、劇団道化座初訪韓公演は無事、成功裡に終えることができました。

ご支援いただいた皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。